

**日本NGO支援無償資金協力事業**  
**津波被災児童のための心のケア支援プロジェクト**

1. **事業の実施期間：**平成19年3月2日～平成20年2月29日
2. **事業地：**インドネシア共和国ナングロ・アチェ・ダルサラム州、バンダ・アチェ市及び大アチェ県
3. **事業の内容と実施成果**

この事業は、スマトラ沖大津波の被害を蒙ったインドネシア国アチェ州のバンダ・アチェ及び大アチェ県内において、8つの被災者コミュニティの児童を対象に、心のケアを促す活動を通じ、被災直後に児童の心に刻まれた心的トラウマを軽減することを目的に、心のケアプログラムの開発・改善とその実施、活動実施者の養成、コミュニティのプログラムに対する理解促進及び関係者との連携強化、の3つに焦点をあて実施した。

児童を対象とする心のケアプログラムの開発・改善・実施については、地元NGOとの連携の下、当団体が本事業実施前から取り組んできたプログラムを事業目的に添うよう改善、実施した。具体的には、読書、保健衛生教育、ゲーム、創作活動等を含む心のケアプログラムをマニュアル化し、ボランティアが容易に活動をファシリテーションできるようにした。活動の結果、実施前に比べ児童が読書好き、態度が落ち着くなどの変化が観察された。活動終了後も多くの児童がコミュニティ図書館を利用しており、ノンフォーマル教育として果たした役割も大きいと評価できる。

プログラムの活動実施者養成については、コミュニティのボランティアを対象に、児童心理の把握方法やコミュニケーション手法、図書館運営や読み聞かせ技術についての研修を実施した。研修を受けたボランティアを中心に、イニシアティブを醸成し主体的活動を継続するよう、段階的にファシリテーションを行えるよう調整して活動を実施した。これらにより、ボランティアは自信を深め、児童の好意的な反応にさらに意欲を増したという感想も聞かれた。

とはいえ、復興支援事業ならではの課題もあった。急速な復興により、特に仮設避難所やシェルターでは人の移動が激しく、研修を受けたボランティアの定着が困難な状況であった。しかし、コミュニティの住民の理解が深まり、彼らの協力によりこの課題を克服することができた。

コミュニティのプログラムに対する理解促進及び関係者との連携強化については、対象児童の保護者と活動について振り返りを行い、要望や問題を共有した。追悼集会<sup>1</sup>や児童の創作活動で制作した作品展示といった機会を通して事業の目的と重要性の認識を深めてもらい、さらにコミュニティ住民と当局関係者間の会合を設定するなど、連携強化を促進した。継続的な活動の要請もあったが、研修を受けたボランティアが活動のファシリテーションを実施できるようになったため、今後はコミュニティ主体で活動を実施していくことで合意した。

上記の活動により、心のケアを促す環境が整備され、事業終了後も継続していく素地が形成された。読書、保健衛生教育、ゲーム、創作活動等の活動に対する評価としては、全参加児童の3分の1の児童を対象とする活動意欲測定の結果、プログラム参加児童の13.63%の児童に積極的行動変容、60.76%に積極的行動維持がみられるなど、トラウマ軽減を示す結果がみられ、事業目的は達成されたといえる。研修を受けたボランティアのほとんどが女性であることを鑑みると、女性のエンパワメントも図ることができたと評価できる。

#### 4. 日本NGO支援無償資金精算額：米貨 82,170ドル

---

<sup>1</sup> スマトラ島沖地震による大津波発生から三年目の12月26日に、対象コミュニティで犠牲者を追悼する会が開かれた。